

佐賀地区津波避難タワー落成式

佐賀地区の津波避難タワー落成式が4月13日(木)に行われました。タワーが完成した浜町地区は海抜3・4メートルの地点に立地。南海トラフ巨大地震による津波の想定高は最大18メートルに達するとされています。また、津波到達想定時間は19分のところ、これまでの避難場所では避難に20分かかり、高齢者の多い同地区ではかねてより避難タワーの建設が望まれていました。

避難タワーは高さ22メートル、約6億円余りをかけて国内最大規模で建設され、マグニチュード9・0の地震にも耐えうる設計となっています。高齢者や障がい者に配慮した緩やかなスロープと手すりが設置されています。

同地区区長の吉本幸さんは、「建設当初は地盤や技術的な問題で建設が難航するとされていたが、回りの人の意見や協力もあり、ひとつずつ課題が解決され、無事建設の運びとなった。今後は避難訓練を例年以上に行いたい」とのことでした。

地域住民は、「タワーができたことで安心した。立派なタワーで



国内最大級 22mの津波避難タワー

【概要】

- ・ 高さ 22m
- ・ 避難フロア面積 233㎡
- ・ 避難収容人数 約230人

【設備】

- ・ 備蓄品用倉庫
- ・ 個室 授乳室
- ・ ソーラー式照明
- ・ 緊急用救助用スペース(ヘリパリング)

誇りに思う。災害が起きることなく、地域のシンボルとして親しまれたら嬉しい。台風時や花火鑑賞運動などのコミュニティの場として活用していけたら」と期待していました。

中小企業者等経営支援に関する協定締結

黒潮町は3月29日(水)、黒潮町中小企業者等経営支援会議と「黒潮町中小企業者等経営支援に関する協定書」の締結調印式を行いました。

この支援会議は、高知県信用保証協会、株式会社高知銀行、幡多信用金庫、黒潮町商工会が、黒潮町の産業振興のため、町内の中小企業者などの経営支援を図ることを目的として立ち上げました。

この協定は、町と支援会議が相互の連携と協力について、事業の円滑な推進を図り、経営支援を効果的かつ効果的に機能させるためにあらかじめ締結したものです。

支援の内容は、今年度、町が創設をした保証料補給制度や利子補給制度の申請書作成支援、決算会計資料の作成支援、各種支援施策の斡旋および活用に対する支援などです。

支援会議の事務局は黒潮町商工会が行い、総合的世話係の役割をします。

経営支援について、相談などがありましたら商工会にお問い合わせください。

なお、商工会会員以外の事業者の相談も受けます。



調印を終えた同支援会議の代表者ら

【25ページ「黒潮町中小企業者等経営支援事業」参照】

○お問い合わせ

黒潮町商工会

本所 ☎ 43-1203

支所 ☎ 55-2286

本庁産業推進室 商工観光係

☎ 43-2113 (直通)